

「特発性肺線維症(IPF)における呼吸器予定外入院の予後の検討」に関する公示

特発性肺線維症(IPF)は平均予後 3～5 年と報告される重症な病気です。このような病気を持つ患者さんにおいて、呼吸器症状の悪化による緊急入院は頻度が多く、病気の進行や寿命の短縮につながる事が報告されています。IPF 急性増悪や肺炎、心不全などがこのような原因に挙げられますが、実際にはそれぞれの原因がどれくらいの頻度で見られるか、そして病気によって寿命に違いがあるのかどうかは、まだ十分には分かっておりません。2016 年に、IPF 患者さんにおける緊急入院を起こす病気の分類、及び IPF 急性増悪の定義が変わりました。今回、この新しい分類に基づき、IPF の患者さんが急に呼吸器症状が悪化した際にどのような病気に罹患され、どのような経過を辿られるか検討する研究を計画しています。

2008 年 1 月～2016 年 12 月までに呼吸器症状が悪くなった結果、当院で緊急の入院を要した IPF 患者さんの診療情報を収集して解析を行います。この研究では、集計・解析に際して匿名化して情報を取り扱い、対象者の個人情報を厳重に保護しています。上記に該当する方で、この研究についてのご質問や研究協力の拒否を希望される方がございましたら、お手数ですが公立陶生病院呼吸器・アレルギー疾患内科医師・寺町涼（電話 0561-82-5101）までご連絡いただければ幸いです。

研究責任者：公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科部長 近藤 康博

研究協力者：公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科部長 松田 俊明

研究協力者：公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科医長 寺町 涼